

# いまさらきけないプロジェクト企画第5弾 歴史から学ぶ核と原子力

オーストリアに「世界で最も安全な原発」と呼ばれている原子力発電所がある。1976年に完成して一度も使われたことがなく、今後も使われることがないからである。国民投票により50.47%という僅差で稼働を拒否。その直後、1977年スリーマイル島、1986年チェルノブイリで原発事故が起こり、原子力のないオーストリアを憲法に取り入れた。我々日本国民が「3.11」以降に行動すべきことだったのではないか。増谷英樹 コラムより一部抜粋



ここに一枚の写真がある。

原爆投下後の広島に象徴天皇となった裕仁天皇が初の行幸に出られた時のものである。本来ならば、治安上、天皇を背後から撮影されることなどないはずであるが、なぜ、この写真が存在することになったのか。

米国による原爆投下の正当化のために、ドームの前に1万人もの広島市民を動員させ、天皇を前に万歳三唱をさせているのだ。これは、全米にニュース映画として配信されたものである。

こうして緻密に仕組まれた戦略により、原爆投下から新憲法発布、象徴天皇制の導入、これが原子力にどう結びつき、そして原発事故というカタストロフィーに繋がるのか、当日は2部構成で行います。

**第1部：「天皇と軍隊」を上映。** 仏在住映画監督 渡辺謙一氏が  
2009年ドイツ・フランス公共放送で放映されたドキュメンタリー作品

**第2部：鼎談「歴史から学ぶ核と原子力」**  
渡辺謙一氏/黒尾和久氏(ゲスト;重監房資料館部長)  
/木村真三氏(司会進行;獨協医科大学准教授)

2020年2月1日(土)13時開場  
集まり次第上映開始、16時00分終了

会場:安積総合学習センター(旧 サンフレッシュ郡山)  
郡山市安積町荒井字南赤坂265

定員 140名、駐車スペース/150台

資料代 500円

問合せ 吉川一男 090-7663-1566

主催;いまさらきけないプロジェクト実行委員会

## 開催主旨

原発震災によって、核による放射線が身近な問題になってしまいました。目の前で起きていることも大事ですが、同時に未来へ向けて解決するためには昭和、平成時代の歴史から学ばなければ見えてきません。今回は映画を教材にして作品中、福島県出身者2人がそれぞれの立場から発言しています。こうしたきっかけから歴史的経緯のもと日本が歩もうとする未来を感じてください。

## 鼎談「歴史から学ぶ核と原子力」 出演者紹介

### 渡辺謙一(わたなべ・けんいち)・映画監督

1975年、岩波映画入社。1997年、パリに移住、フランスや欧州のテレビ向けドキュメンタリーを制作。『桜前線』で2006年グルノーブル国際環境映画祭芸術作品賞受賞。近年は『天皇と軍隊』(2009)のほか、『ヒロシマの黒い太陽』(2011)、『フクシマ後の世界』(2012)、『核の大地・プルトニウムの話』(2015)など、欧州において遠い存在であるヒロシマやフクシマの共通理解を深める作品制作に取り組んでいる。

### 黒尾和久(くろお・かずひさ)・考古学者

平成12年(2000)11月5日に藤村新一による「旧石器遺跡ねつ造事件」が発覚したことを契機に考古学史研究に着手、考古学者の植民地支配・侵略戦争、国策との関わりを調査する過程で、同じ負の構造をもつハンセン病問題の存在を知る。

平成21年(2009)4月から国立ハンセン病資料館学芸課長、平成26年(2014年)7月から同館学芸部長としてハンセン病史に関する資料の収集・保存、展示企画などを手掛け、重監房資料館開設準備にあたって特別病室(重監房)跡の発掘調査・報告を主導したほか、人権啓発にかかる講演活動も行っている。平成29年(2018)6月より現職。

### 木村真三(きむら・しんぞう)・放射線衛生学者

福島原発事故直後に勤務先の厚労省所管の研究所を辞し、2011年3月15日から福島県内で放射能調査を開始。

現在、郡山市在住。二本松市放射線専門家チーム代表  
獨協医科大学国際疫学研究室福島分室室長

次回予定ご案内:8月23日(日)

リュドミラ・ウクラインカ、アンナ親子(ベラルーシ)による講演  
「(仮)甲状腺がんを乗り越えて」

主催:いまさらきけないプロジェクト実行委員会

共催:NPO法人 チェルノブイリ医療支援ネットワーク